

利用された図書を、分類別に見ると、文学、歴史地誌、児童部門の増加が目立つ。文学部門でもっともよく利用されたのは現代小説であり、歴史地誌部門では、シルクロードを初めとして、中国関係のものが多く、つまり、テレビ放映との関連が強いことを示している。

表5 館内利用図書冊数

(昭和55.4~56.3)

区 分	冊 数
郷 土 資 料	4,802
一 般 資 料	12,006
新 聞 雑 誌	2,288
特 許 公 報	3,263
計	22,359

開館日数 271日
 一日平均利用冊数 83冊

表6 館内利用者数

(昭和55.4~56.3)

区 分	人 員
調 査 相 談 室	3,064
公 開 図 書 室	2,049
計	5,113

開館日数 271日
 一日平均利用者数 19人

2 調査相談業務

調査相談業務の中心は、調査依頼に対する回答事務であるが、全体の件数では4%ほど前年度を上回った。(表7)

調査依頼を職業別に見ると、官公庁及び民間企業と、それぞれに所属する者が44%を占めてもっとも多く、学生の27%、主婦の9.3%と続く。この順位は、例年と比較して変わるところはないが、学生が前年度の17.2%から27%となり9.8%も大幅に伸びたのが目を引く。

表7 記録された参考質問の分析

(昭和55.4~56.3)

主題別 職業別	主 題 に 関 す る 分 析													質 問 形 式 による分析		
	郷 土	総 記	思 想	歴 史 地 誌	社 会 学	自 然 学	工 学 ・ 工 業	産 業	芸 術	語 学	文 学	新 聞 ・ 雑 誌	計	口 答	電 話	文 書
官庁・会社員	203	14	11	25	55	16	53	15	7	8	26	35	468	136	171	161
商・工業	18			5	9	2	9	4	2		2	14	65	31	15	19
自由業	42	1	4	2	7				3	2	4	12	77	24	13	40
主婦	11	1	1	7	9	5	2	2	3	16	22	18	97	16	71	10
学生・生徒	76	4	7	22	35	16	8	12	11	17	24	50	282	238	25	19
無職	29	3	5	5	1	1	1	1	1		2	5	54	14	4	36
計	379	23	28	66	116	40	73	34	27	43	80	134	1,043	459	299	285

口頭、電話、文書の三つの質問形式では、直接来館しての口頭による質問がもっとも多く44%を占め、ついで、電話によるもの28.7%、文書によるもの27.2%という結果である。

表8 相互貸借件数

(昭和55.4~56.3)

	県 内	県 外	計
貸 出	22件 (72冊)	4件 (4冊)	26件 (76冊)
借 用		17件 (43冊)	17件 (43冊)
計	22件 (72冊)	21件 (47冊)	43件 (119冊)

表9 特別貸出し状況

(昭和55.4~56.3)

貸 出 し 先	件 数	冊 数
官 公 庁 関 係	95	247
図 書 館 そ の 他	40	1,101
会 社 ・ 事 業 所	16	48
報 道 機 関	58	132
学 校	46	163
一 般 利 用 者	41	170
計	296	1,861